

丈夫がいいね

■441



するという簡単なものだ。歯の根のまわりの組織「歯根膜」が接着剤の役割を果たし、一カ月ほどで歯の根と骨がくっつく。まるで木を植え替えて根がはるのを待つような感覚である。

使える親知らず

女性は余分な歯を抜いて一部にすぎ間ができたが、矯正治療で改善し、結果と

うのである。移植といっても、手術は

後、左上の親知らずも抜き、虫歯になった左上の大白歯と取り替える手術を金大附属病院歯科口腔外科で受けた。移植した二本の歯は、ほかの歯と同じように硬い物でも噛むことができ、「自分の歯が再び生えてきたようです」と喜ぶ。

自家移植は自分の歯を使うため拒絶反応はない。歯が現状という。それでも、自分の歯をリサイクルできる喜びは大きい。先の女性は「入れ替えた歯も自分の歯であるという安心感がある」と語る。インプラントなどの治療技術が進化しても、自分の歯にまさる物はない。歯を失った患者にとって、自家移植は歯のありがたみをしみじみと実感できる治療法といえる。

歯の自家移植

虫歯や歯周病などで歯を失ったらどうするか。入れ歯や人工歯根を使うインプラント、失った歯に隣接する二つの歯を削って人工歯を固定するブリッジなどの方法が一般的に知られているが、もう一つ、選択肢がある。親知らずなど抜いても差し支えない歯が必要な場所に移植する方法だ。この手法は「歯の自家移植」と呼ばれる。

ほかの歯と同じ

金沢市内の主婦(40)は九年前、差し歯にしていた左上の側切歯がもろくなり、

不要歯の転用で「一石二鳥」

た。女性は、先天的に下顎の歯の数が通常の人より多く、「過剰歯」と呼ばれる余分な歯がせり出していた。新沢院長の提案は、この余分な歯を抜き、左上の側切歯に植え替えようとい

る「ドナー歯」を抜いて穴に植え直し、金具で固定

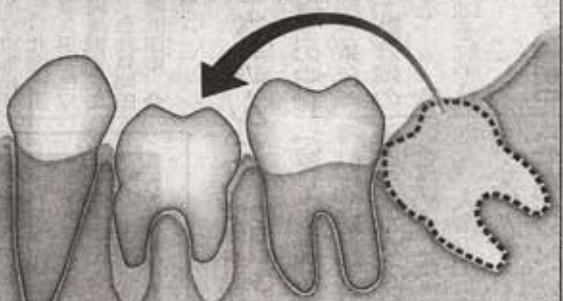
して下の歯並びが以前よりきれいになった。側切歯に

代わる歯もできて、まさに一石二鳥の治療である。その

根膜の状態さえ良ければ、ほぼ100%の確率で移植は成功するという。ただ、移植には条件がある。ドナー歯は、抜歯したばかりの、歯の根がしっかりとした健康な歯でなければならないと

いうことだ。さらに、噛むのに必要な「現役の歯」を抜くわけにはいかないから、親知らずや過剰歯、矯正のために間引きしなければならなくなった歯など、不要な歯がある場合でないと移植はできない。こうしたタイミングの問題もあり、歯の自家移植を実際に行える人はまだ少ないのが現状という。

歯の自家移植



親知らずを第一大臼歯に移植する

丈夫がいいね

■442



ここに二枚の写真がある。上顎より下顎が前方に出た、いわゆる「受け口」に悩んでいた男性の治療前、治療後の写真である。明らかに顔立ちが変わっている。「小さいころからのコンプレックスが解消できました」。現在、滋賀県に住む会社員男性(33)は、約十五年前に受けた外科矯正治療の成果をこう振り返る。

手術前後に矯正

治療を始めたのは金大四年生のころだった。かかりつけ医の紹介で、同大附属病院歯科口腔外科の山本悦

「受け口」を治す

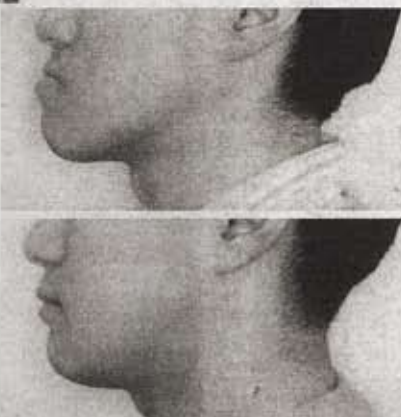
必要だと言われた。「時間があがる学生のうちに治療しよう」。男性はそう決意した。受け口の手術は歯の矯正と一緒にされる。手術で下顎を正しい位置に動かした時に、上顎ときちんと噛み合わせるよう、事前に矯正装置を付けて歯並びを整

噛み合わせも同時に改善

秀教授を訪ねると、極端な「受け口」を治すには下顎の骨を後ろに下げる手術がえておく必要があるのだ。先男性は、金沢市泉が丘二丁目、いざわ歯科・矯

正歯科医院で半年ほど歯の矯正治療を受けた後、金大附属病院で顎の手術を受けた。口の中からメスを入れ、下顎の骨の根元を切った後、後方に下げてチタンネジで固定した。退院後に引き続き歯の矯正を行い、もう一度、噛み合わせを調整するなど治療には約二年間

「顎変形症」と呼ばれる病気の一種である。上顎が前方に出ている人や、下顎が横にずれる非対称になっている人など、さまざまだが、日本人には下顎が前に出る「受け口」が多いという。見た目だけでなく、噛み合わせに問題があることも多く、放置すると肩こりや腰痛



治療前(上)の治療後(下)の男性(いざわ歯科・矯正科提供)

を要した。それでもやってみようと思った」と豆づつ。

受け口は、「顎

病気の1つ

横濱市在住の主婦(33)は、高山市に住んでいた十年前、顎関節の痛みが深刻化し、「受け口」を治療するこ

痛を引き起こす。病気を認められており、矯正治療を含め保険が適用される。

「顎変形症の手術は美容整形ではありません。病気であるという認識を持ち、積極的に相談してほしい」。金大附属病院で現在、顎変形症の治療を担当する上木耕一郎助教はこう話す。今では手術は九十分程度で済むようになり、顎を固定する器具もチタンネジから、体内に自然に吸収される素材へと進化し、患者の負担は軽減されてきている。勇気を出して、健康的な「口元」の美を手に入れよう。